

第 45 回

心身健康科学サイエンスカフェ

何故、製薬メーカーが
健康寿命延伸に取り組むことになっているのか？
...ハイリスクアプローチから
ポピュレーションアプローチへ...



清水 精一先生

大塚製薬株式会社

人間総合科学大学大学院

心身健康科学専攻 博士後期課程

令和元年9月13日(金) 18:00 - 20:00

人間総合科学大学 東京サテライト (高田馬場)

参加費：500円 受付：17:30 -

演者から

医薬品の開発は最先端のサイエンスが要求され、ノーベル賞を受賞することもある。日本は国際的に通用する医薬品を開発できる限られた国の一つである。その歩みは1980年代を境としている。それと同期して、食品(成分)による予防医学へのアプローチが始まった。Functional Food、特定保健用食品、機能性表示食品という形で食品成分の健康価値が位置付けられたと考えている。ヘルスプロモーションの概念では、医薬品はハイリスクアプローチに位置付けられるが、食品成分も結果的にハイリスクアプローチが目的となっていたのではないかと振り返る。人生100年、健康寿命延伸の実現には予防医学的アプローチが果たす役割は大きい。身体的、精神的、社会的虚弱を指し示すフレイルという概念がある。現在、自治体を含めた産学官の取り組み、口腔フレイルへのアプローチを具体的に示し、製薬メーカーとしてのポピュレーションアプローチへの試みをご紹介させて頂きたい。

最寄り駅：JR・東京メトロ東西線・西武新宿線 高田馬場駅 (徒歩13分)
東京メトロ副都心線 西早稲田駅 (徒歩8分)

お問い合わせ、お申し込み
人間総合科学心身健康科学研究所

E-mail : jshas@human.ac.jp
☎ 048-749-6111
webからも申し込みます

